

道内広葉樹資源の流通動向調査と製材用途の利用拡大に向けた中径木の材質調査（令和4～5年度）

林産試験場 利用部 資源・システムG, 性能部 性能・環境G



● 研究背景

- 北海道の広葉樹資源
大径原木の枯渇
輸入原木確保への不安
地域資源への指向の高まり
広葉樹の蓄積量の増大
- 針葉樹人工林の伐採量増加
侵入木，二次林の伐採量も増加。
針葉樹人工林生産と異なり、特定の
樹種を計画的に得ることは難しい。

● 研究ニーズ

- 道産広葉樹の、今後入手可能な樹種および
量の見通しの手がかりが欲しい。
- 道産広葉樹の良質材が減ることから、径級
30cm未満の中径木の材質データが欲しい。
- ナラ・タモ以外の樹種を利用するために材質
データが欲しい。



● 研究目的：

広葉樹資源の製材用途への利用拡大を図るために、道内**広葉樹資源の流通動向**を統計資料や文献などによって調査するとともに、**中径木（末口30cm未満）の材質を調べる**

1) 道内広葉樹資源などの流通動向調査

- ◆ <銘木> 北海道産広葉樹銘木市の過去約10年の樹種構成・径級・長さ等の変遷
- ◆ <一般材> 主要広葉樹一般材の変遷
- ◆ 東北など他地域での流通効率化の取組



北海道銘木市（旭川）

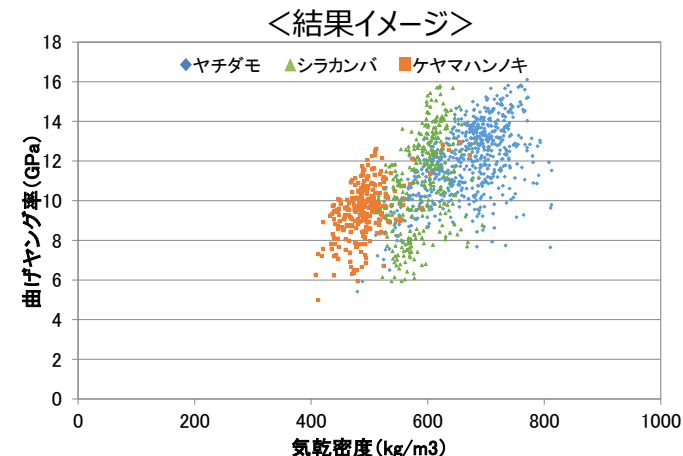
【主な試験項目】統計資料・文献調査・聞き取り調査

2) 材質評価

- ◆ センなど流通量が多めの3樹種程度（メジロ、セン、ニレ）の中径木(30cm未満)の材質・強度試験を行い、文献値と比較して製材での利用可能性を調べる。



JIS曲げ試験



【主な試験項目】年輪幅、材密度、収縮率、材色、JIS曲げ試験

● 期待される成果と活用策

- 銘木や一般材として流通する道産広葉樹原木の直近10年程度の流通動向を示し、その材質的特徴について情報提供を行う。
- これからの道産広葉樹の持続的な利用可能性を考える資料として公表する。

普及協会70周年
総会講演会で
成果発表予定
(2024年)



中間土場（様似町）